



尾州
一柳加太屋
名古屋

今昔物語

倭部二目錄

○世俗傳

- 一 滋岳川人被逐地神詔
- 二 天文博士弓削定雄占夢詔
- 三 賀茂忠行傳道子保憲詔
- 四 安倍晴明隨忠行習道詔
- 五 播摩國陰陽師智徳法師詔
- 六 人妻成惡靈陰陽師除其害詔
- 七 玄象琵琶為鬼被取詔
- 八 三善清行宰相紀三三三口誦詔



今昔物語 ○ 中 明 卷 二

一 卯 建 于 辰 及

今昔物語 倭部二

○世俗傳

一 慈岳川人被追地神話

慈岳。當作滋岳。江談抄曰滋岳川人。文德實錄曰
齊衡元年九月丁亥。乃改直川人賜姓滋岳朝臣

今いひし。みす代文徳天皇うせさあしあひ
ありし。按天安二年八月廿七日崩 諸陵をよごんごりあか。大

納言安倍朝長安仁といひる人。うもをさぬりて

そのふねねとさふと。人ごとく具く多。法

陵乃ありゆとさう。其射り慈岳朝長川人

あつて湯師あつとさう。あつて湯師あつとさう。

今昔物語 倭部二

くらぶど世まらむしむら

て諸陵乃とろろと點トて

三代實録曰外從五位下
行陰陽權助兼陰陽博士

滋岳朝臣川人外從五位下行陰陽助兼權博士登朝臣
名高又曰至山城國葛野郡田邑卿真原岡定山陵之地

おくらめとハ皆ふらうらふ深草乃水の程と終

とた川人丈納言のめららく馬込ららるるを
そのいふまゝとていふる氣込んをぬ丈納言を
がそを得てこれと岡とらそふらうらうら
ぶらけらぐとてへ作らひとては道よとらうら
ふらいまごあやまらうらうらつらふらひとて大
うあやまらうらうら。それよとらうら。程とて地林



今昔物語の類
てんごんごうのゆくはまをまよや。あつらふと
遊あそばねととど。土つち乃のろろふふああつつててれれ。ほほろろ物ものと
べべーーややよりりみみややりり。ああつつ種たねももああつつくくるるごごららよ
ししとと。口くちくくいいししいいささりりままははままんんとと地ちががききままのの。
ままままいい今いま日ひここそそくくああららまま。けけああままいい今いまごごららわ
ううややいいああららまま。今いまままひひまま一いち月げつ晦みづか日ひ乃の夜よ半はんいいりりて
ああつつ得とくててんん各おの其の夜よああつつままららぶぶーーややいいししててううららぬぬ。
このこのらら大だい納なつをを川かわ人ひと田たよりよりととううてて大だい息いきけけをを居ゐ
ららるる。大だい納なつ言こといいくく。今いま地ち神かみののいいししるるややららははああらら
ハハ。始はじめ終おしまののららぶぶーーとともも地ちががままだだいいししててけけいいししるるいいまま。

こやあまのい川人その夜よつらて人うまをま
まご二スうれつらまんとつておのくあまうらぬ
くて晦日よあつ川人大納をれりたまへく。人よれ
あつまをいあまうくもまひか。強さか敵たぐままりりて堂
乃の天てん井ぐよよととううてて川かわ人ひといい呪よとと誦な。大だい納なつををいいとと漢かんと
唱なつつくくままちちりりくくるるああつつらら同どう。ああままととううららここららああらら。
異いつつれれるる香かああらら。ああままののああららりり風かぜ吹ふけけららんん。堂どうままの
とと地震ちしんののああららみみゆゆららなならら。杉すぎををかかししとといいしし
らららられれ。程ほどををくく鳥とりああららままらられれ。天てん井ぐよよととううてて
ゆゆてて家いえううららららぬぬ。いいまま川かわ人ひと大だい納なつををいいとと漢かんと

今昔物語の類
五

ひいて川人かたのそと。いっはくくのりたを
ぶうし。今ハ押せんまうらうらうらうらう
まり。大納言のいどく川人を降せんらう。それ
をさうし川人のまらふす。これら後湯師あり
やちん。さうらはくえさうらう也

二 天文性士ら割是雄占夢又詰

今いしけ何集といふ老穀藏院拾芥抄曰穀藏院二条南朱雀

西在、大学、西、納、畿内諸國、銅、銭、無、主、位、職、田、及、没、官、田、太、宰、縮、等、諸、庄、物、勤、年、中、饗、乃使ゆして。その
封戸をわきしじびぬ。東國の方より。目を
経くうらのちうそ。近江國勢多の驛に宿を。

この時。近江國司後湯師天文性士ら割是雄

姓氏録曰弓削宿祢神饒速日命之後也。○是雄其後胤也歟。屬星をまつじ。是雄穀藏院の男と同宿し

ぬ。是雄男は向くはいつまのちうらうらう

まのちうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
乃封戸をわきしじびぬ。東國の方より。目を

今いしけ何集といふ老穀藏院拾芥抄曰穀藏院二条南朱雀

封戸をわきしじびぬ。東國の方より。目を
経くうらのちうそ。近江國勢多の驛に宿を。

らぬ中ゆりあふ。出どい射るるんといひ。鷹は中
 より法師一人出たり。則後者それとくめて同
 志づくといひてさうけり。志さうに同きて。かくと
 事公坊どるぐらうぐまれ。清房は年々らば般
 乃上穀藏院。うちらうぐさあひけり。今日めが
 ちやうと同く。侍てらうとまれ。上乃作つて。バ
 かくれてうぐいけぬと。男これをきて。けの
 宿報くこて。是雄と同宿して。令公たさうり
 くるかろぐささよとさうぐい。まづ是雄が方よ
 じういて誅く。そのら法師と。檢非違使み

取と。毒はハ遊やう。じうハ是雄ふ。あつた
 あつた。それふ。後場呼と。やうと。あつた。あつた。

三 賀茂忠行傳道子保憲銘

といじう。賀茂忠行丹波權頭從五位下。出羽介從五位下。江人子系。圖曰吉備曆。

小黒磨。諸雄。人磨。江人。忠行。姓。氏。録曰。賀茂縣。と。子。法。見。

師のり。道う。けさ。て。い。あ。ふ。も。ら。ら。む。也。
 け。し。も。肩。瓜。を。う。ら。る。者。あ。し。こ。の。故。よ。公。私。ぬ
 これを。中。ん。ど。れ。を。考。へ。て。用。れ。れ。ら。る。あ。ら。う。に
 ある。同。人。あ。ら。て。ば。ち。の。り。と。さ。の。り。と。後。と。で。さ。す。る

とあり。おのゆんをて出立くらふ。具つゝ保憲

陰陽天文博士主計權助

るのふたの十景げりありし。ぐ。くもに地

りきこいふれ。車にのきて相具し。り。おのり

後殿(うしろ)ゆきと後(うしろ)とす。に保憲の具そごの君

てこれをもんね。後ねらうね。おのり。おのり

ぬ。おのりも保憲と具して。り。おのり。保憲はみ

い。後のおそえんね。おのり。おのり。おのり

おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

ぐ。同。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

い。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

け。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

く。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

と。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

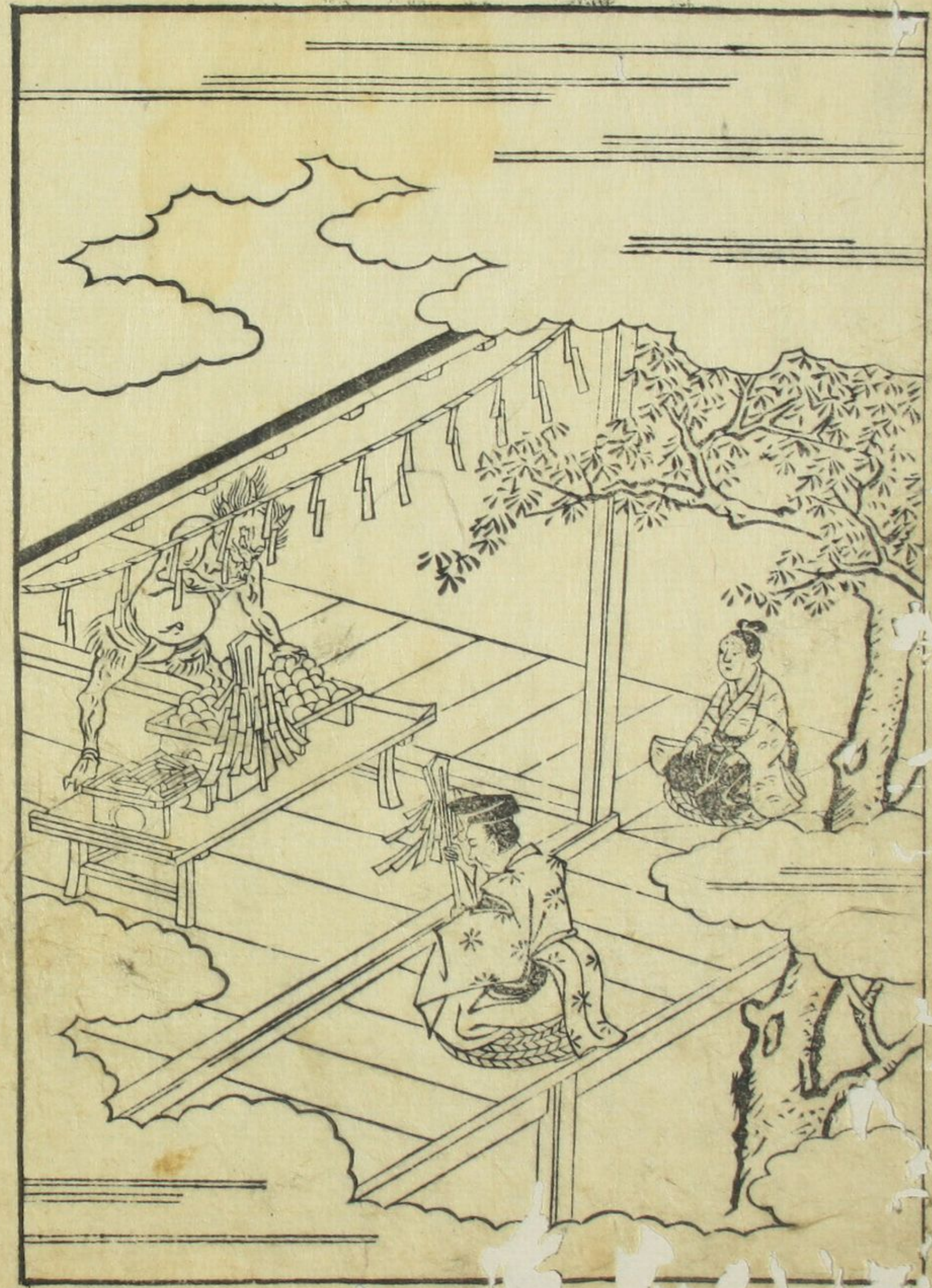
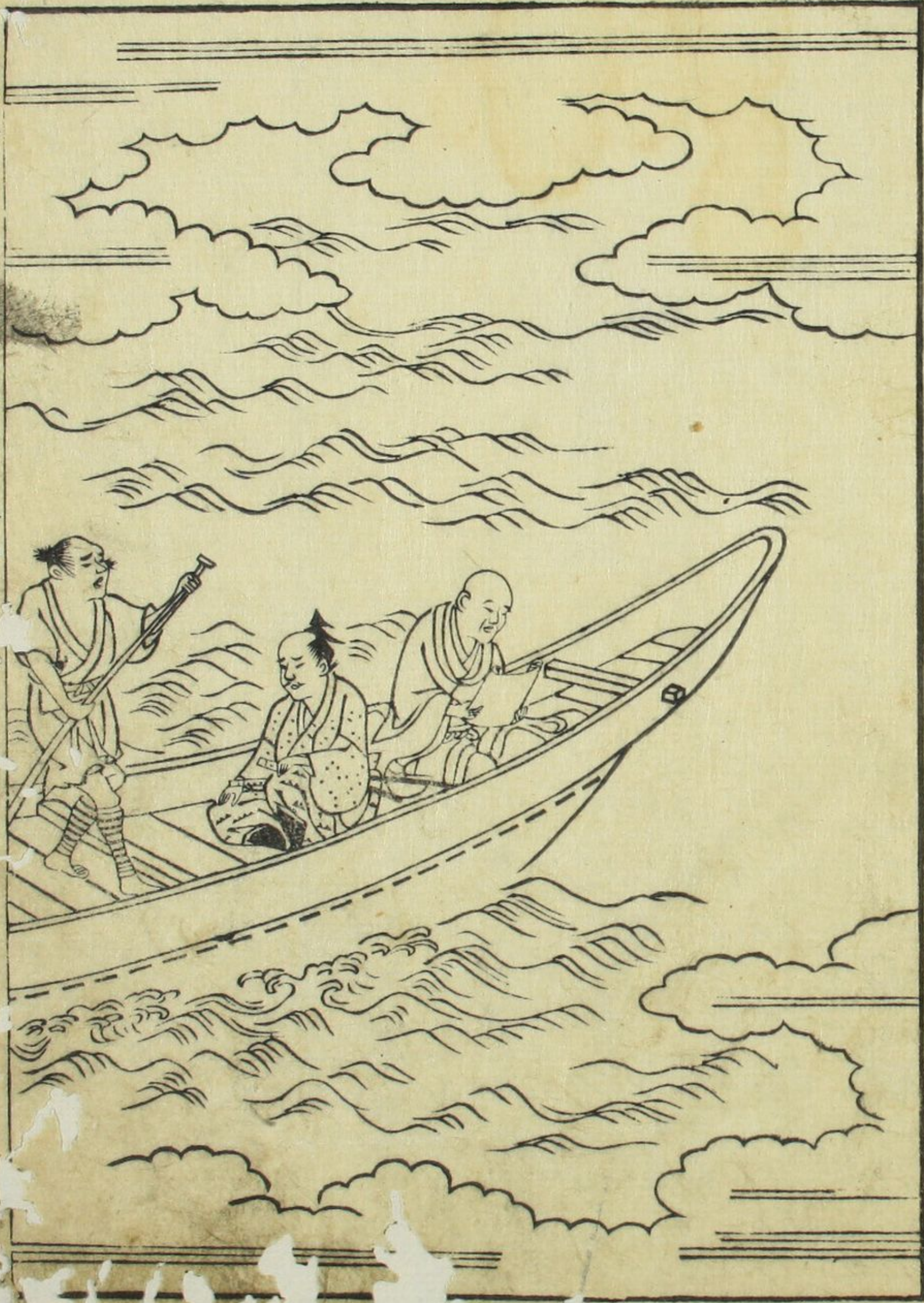
よ。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

我。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

お。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

ち。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

も。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり



ありまら。其子孫今もいづく。陰陽乃道よき
らむれ。又磨成はくろく。び流とるまれ
る。あつく人あしあえ。かたりけりくろく也

四 安倍晴明隨忠行習道語

今いむのし。天又性全安倍晴明

播摩守從法三下○拾芥抄
北。西洞院東

とて厚んおふらうとらるものやう。せされし時より。
賀茂忠行しとてい。昼夜しけ道と習ひ
くろく。いけくろくをのれさ。まなし。ちうけり
晴明若くうろくした師のたけが。お中以下後

くゆさう。傳ふ。歩くと車乃わく。みささういり。
たの車の内して寝入る。晴明向ふれ。成と
まば。せうしき。鬼し。車乃。あまきり。
晴明。な。な。う。あて。車れ。う。み。け。う。より
て。た。の。と。お。こ。し。て。ひ。く。と。は。ま。さ。う。れ。い。た。の。り。用。さ
め。く。鬼。成。と。つ。ま。て。術。は。と。も。つ。て。り。が。か。の。か
ま。れ。く。後。者。を。も。く。し。て。け。り。ま。く。過。り。く。る。
このらたけ。晴明と去る。く。わ。い。て。び。道。と
そ。ゆ。の。車。龍。の。水。成。く。は。と。う。あ。く。ま。れ。い。
終る。晴明。は。た。よ。つ。と。て。か。の。成。天。下。に。あ。り。け。り。

たりとるを。さうけえたる也

五 播磨國法陽師智徳は師諸

今いじり。播磨國法陽師と云ふは師あるを
を智徳といふ。年来其國は怪で。比道とて
人よ去り。終る者なり。あつるふ。あつる。多
くの物とて。はる。取を。漕のが。す。て。明の
沖を。海賊あり。あいて。取の物を。う。つ。れ
あつる。人。業。する。者。さ。く。さ。つ。され。る。そ。と。取
は。さ。と。下。人。とい。海。と。さ。い。く。今。と。あ。と。り。
陸。あ。つ。て。後。其。さ。り。その。折。ち。智。徳。あ。り。て。

何人ぞと問ふれば。船を。う。つ。る。國。より。の。が。り。つ。る
。げ。沖。を。昨。日。海。賊。よ。あ。いて。取。の。物。は。さ。り
と。人。い。さ。ら。されて。我。等。さ。り。希。有。れ。今。ま。て
は。り。ち。り。と。さ。り。智。徳。と。ま。い。さ。り。あ。く。い。は。し
と。ま。り。れ。ね。と。み。と。去。り。奴。と。あ。り。せ。と。中
と。い。づ。船。を。さ。り。つ。れ。よ。り。さ。り。と。い。や。ん。と。い。は。し
あ。つ。る。ふ。さ。り。く。ゆ。ん。の。取。と。ち。り。く。い。智。徳
と。い。は。の。何。何。あ。り。と。い。づ。船。を。さ。り。く。り。何
と。い。と。さ。り。と。の。と。れ。よ。智。徳。の。取。り。と。あ。り。て。取。ま。り
果。て。沖。を。漕。つ。と。り。せ。と。あ。り。と。取。と。り。と。い。は。し。

よま字紙書後とよみく降まわぐりて後人多に
くやして。四め白海のきくろふ。船とくはたて
七日めあつりくるふ。びびくもあく船一艘をよ
いまひり。かこい金さる人ども兵杖をきりて
船をくだよせしべ。酒うらて酔るもの
中より。おぎんとせざりくる。是件の海賊にて
さつるあつり物らとせびて。おきれば。船まの
つみほりせく。皆んまびくして。船まの
くり。こまこの老と海賊と。おのりんと志くる
を智徳とちく海賊と。おのりかきまらな

今より後。は四めあつりて。おきまらとたんと
かたれば。四人はむし師あつりて。遊めが
くろ。思ひく人。お智徳が陰陽の術と。つて。海
賊とけり。せくろあつり。ちれば。智徳もさつりて
おきろ。さ奴と。おきろ。そく。陰陽よあつりて。ぞ
徹神をくされ。くる。 此事見千宇治拾遺物語故畧之 ちれば
くまの具はをさく。びい。つて。きん。く。ふ。の。掃。手
四より。有。り。と。まん。く。つ。り。つ。り。と。也
六 人妻成。魚。靈。除。其。害。法。湯。師。語
今。い。し。つ。り。あ。つ。り。と。と。ら。れ。妻。と。さ。り。と。し。ん。

妻ふく怨とあやしてまげさうおとく人になら
るのおもひのけりうとて病つゝそそくくあふえ
死し入り。其女の父母もさうまことのれたうを
くれい死骸とさうさうくす。するさあまなく。家乃
うらみおもまり。いつあつたや。まうまね肉も髪
もおらびして常にこころざるとなり。隣家の人物
乃しまよりのぞかんとておそろく事うざりやし。
死てより後家乃肉をえわうそ鳴きしむ。隣乃
んもおそれてあげゆいいう。其まされをまて。
うまにこい死しころあられがうおとど我を

うらこらまぶ。うらあとしては異の難とのれ
るまそ。あら陰陽師のものおそてはまを諸
もあつたころふ。陰陽師つと。はまそこりあ
て大車かり。ちころあれど。びくのもあよこあ
まば。ゆんちうらび。あま。さりあま。ゆんち
さままり。う種とくゆくと念どまんとあ
目られて陰陽師の死人けある家。まを
具うてゆえめ。男の外をゆえるま。身毛髪立
てねま。さめ。ゆしてこのあま。ゆんち。ま
うらま。か。い。陰陽師み身をはらう

あづくゆふふらるる。いふも死人の髪はねむ
骨肉もつらなりて附ら。陰陽師。男と。死い骸がの
骨。馬よ。糸うるやうのきを。死人の髪をよ
小ゆをせしむ。せ。ゆあ。く。ん。ま。つ。こ。ま。う。れ。と。と
して。物をよみうけて。ゆき。愛。う。ま。う。ま。と。め。く
て。中。ぶ。い。ほ。ご。め。て。中。ま。う。や。ま。こ。あ。ん。を。れ。を
念。と。ぶ。い。と。つ。の。ま。て。陰。陽。師。の。出。て。去。ぬ。男。の
口。ん。く。こ。ち。く。せ。ら。ら。あ。ら。の。ま。ね。ど。是。非。を。死
ん。く。ま。て。髪。と。い。ん。く。拵。ら。り。あ。ら。の。向。は。あ。め
入。ぬ。あ。ま。い。と。あ。ん。と。中。の。あ。ら。り。げ。死。人。の。あ。ま。お

のやせつとまいた。つこま。く。其。奴。の。く。ち。て。あ。ら
ま。い。て。け。い。と。あ。ぬ。男。の。陰。陽。師。が。を。い。へ。ら
ま。い。髪。を。と。ま。さ。げ。て。あ。ら。行。く。死。人。立。降
て。もの。あ。ら。り。あ。ら。り。中。ね。ぐ。や。め。う。い。へ。ら。中。を
る。い。た。む。い。ん。ど。お。ら。ら。ち。ら。り。さ。れ。ど。男。の。教。の
ま。い。髪。と。と。ま。さ。げ。骨。よ。糸。く。拵。ら。ら。う。ら。よ
難。な。れ。た。い。び。死。人。髪。を。よ。ご。ち。ら。ぬ。と。ぞ。り
あ。ら。り。あ。ら。ら。ら。陰。陽。師。あ。ら。り。今。あ。ら。ら。ら。て
あ。ら。ら。ら。い。さ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。髪。の。と。ま。さ。り。し。や
と。向。男。の。あ。ら。ら。ら。と。あ。ら。ら。ら。の。と。ら。ら。ら

命書物語の証明卷五

湯師まゝいぬふは物然とえりけとのらふ
 ありて。男をさうた具とてあうらうら
 のさあさうれうらなふれび。かくけうらうら
 今らぬぬゆとれまづうらぶといふら。ゆこ
 かくら湯師とねくうらうらてまあくして
 うらまうら。思らうらまうらうらうら
 とみわう。其湯師の縁も大宿^{ちやまか}通うら所
 うらにありとまん。うらうらゆえうらうら
 七 去象^{ぐんやう}琵琶^{びわ}乃鬼被^{おに}取^と取^と語^ご
 今らうら村上天皇乃湯代^{ゆしろ}よ。去象^{ぐんやう}がうらうら



日藤原直成三守右統。首書。去上。歌。琵琶上手。傳曰。去
 勢太輔判部卿木工助從三位母百濟王勝義女。去上。兼平
 年正月二十一日。率七十歲。以此說考之。去象當作去上。

小くはるるせまらるる。これいせのけさつりもの。そい
 みさき公財ありと。びくうせあまこい。天をまひ
 さげうせまらるる。かゆんてれと。物つ物の。朕
 代さうせあまらるる。かびりあげうせと。ゆ
 おとつりあらり。あつらふこのころ。源博雅醍醐帝孫克明
 親王とつる殿と人あり。びん管絃乃道と得る
 及び去象のころ。さうさ。いさす。ゆいさげと
 ころ。あらね人さづまりて。後。博雅三位清原殿

うそ。南の方んわらりて。去象といひ。音
 わり。あやぐさ。いり。い。が耳。中。さ。い。と。く
 き。い。さ。い。く。去象。れ。音。あ。り。博雅。これ。と。さ。き
 何やまるん。さ。い。あ。い。糸。び。わ。ら。ら。さ。あ。や。さ。て。人。は
 とい。あ。い。さ。い。く。一人。さ。い。さ。い。と。さ。い。く。小舎人
 童一人を具して。衛門の陣。出。て。南。北。方。に
 ゆ。い。朱雀。門。の。さ。い。ら。い。ぬ。家。と。さ。い。ら。い。同。い
 ち。う。め。あ。ま。さ。い。く。ゆ。い。さ。い。ば。朱雀。乃。大。路。と。南。り
 け。い。て。ゆ。い。さ。い。ば。生。門。の。さ。い。ら。い。門。の。さ。い。ら。い
 ち。う。さ。い。ら。い。門。の。さ。い。ら。い。子。家。と。さ。い。ら。い。也。博

御昔物語 神朝繪 一六

を聞て、わしはかたして、いんれらと
わしはわしと鬼なごのりらとをわし
かして、いんれらとわしと。玄象日ごり
うせく。天官のりらとごのりらと。今、玄
淨殿あして、南のりらには音のりらと。嘉
来り、わしちりらと。このりらと。わしと
て。天井より、玄象の繩と、つきて、わしと。わし
わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。
由、玄象にて。玄象と、わしと。わしと。わしと。
つ、わしと。わしと。鬼の、わしと。わしと。わしと。

と、わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。
を、わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。
物を、わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。
は、わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。
ご、わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。
現、わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。
め、わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。
ご、わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。
ま、わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。わしと。
説見

古事、説、其、書

玄象一
説見

ハ 二善清行宰相紀長谷雄口論諸

今いじり延森乃淨時。參議と善清の

出自百濟字、耀而、稱 といふ人あり。其の紀長谷雄

三徳、純、文、雄、門、身 中納言 一名、善、昭、字、寬、而、稱 善才とありあり

清の宰相と口論あり。清の向長谷雄の

と。善才の性任のいふより。今いふより

小きし。をいじり和主のよれば、けりなること

長谷雄これと例といふも、あつらふこと

ふらや。まゝいふことあり。是と例人

と。あつらひなり。中納言と善才の長谷雄を

いふこと。清の宰相の事の外に、おのり

を感ずけり。その何れは、惟宗孝言といふ

是れ他よりあつた。善才の性任のいふ

は、龍乃、昨合の、昨合の、昨合の、

の、獸の、寄付、つら、事なりといふこと。是れ

が、清の、いふ、こと、いふ、こと、いふ、こと、

いふ、こと、いふ、こと、いふ、こと、いふ、

こと、後、中、納言、の、いふ、こと、いふ、

を、いふ、こと、いふ、こと、いふ、こと、

観音を多うしてのほりく海を章世に
 まげ。他國へけうりてまきありてんそ
 あり示現ありありんとあやまらして
 うりうり。そのらいつ程を信じて。長
 死せり。西現れど地獄にまはりて。皆人
 尸にうり。世に紀綱言つて見也。清
 の延びてうれんまはれ。世若雄よりあ
 世よと若寧おとつて見ありてん。諸
 人へも

今昔物語諸二



